雜載

午八月

〔我衣〕傾城賣女ニ近付モノヽ七損

主人ノ機嫌ヲソコナフ、身上ヲソコナフ、命ヲソコナフ、邪智ヲ增シ正智ヲソコナフ、正ジキヲソコナフ、孝ヲソコナフ、人ヲソコナフ、

右ノ内、命ヲソコナフ事品々アリ、

夜深ニカヘリ夜ニ入行トキ、醉狂人ノタメニ、又ハ物取追落シナドニ逢テ死スルモノアリ、

心中シテ死スルモノアリ、是レハ暫ク其座ヲ去レバ留ルモノナリ、〇略中

酒食ヲ過シ、或ハ瘡毒、或ハ腎虛ナドニテ死スル、〇略下

〔更科日記〕麓〇足柄山にやどりたる所に、月もなくくらき夜のやみにまどふやう成に、あそび三人いづくよりともなく出來たり、五十ばかりなるひとり、二十ばかり成、十四五なると有、いほのまへにからかさをさゝせてすへたり、をのこども火をともして見れば、むかしこはたといひけんがまごといふ、かみいとながくひたいいとよくかゝりて、色しろくきたなげなくて、さても有ぬべきしもづかへなどにてもありぬべしなど、人々哀がるに、こゑすべてにるものなく、空にすみのぼりてめでたくうたをうたふ、人々いみじうあはれがりて、げぢかくて人々もてまうするに、こしくにのあそびはえかゝらじなどいふをきゝて、難波わたりにくらぶればと、めでたくうたひたり、みるめのいときたなげなきに、こゑさへにる物なくうたひて、さばかりおそろしげ成山中にたちて行を、人々あかず思ひてみななくを、おさなき心地には、まして此やどりをたゝん事さへあらずおぼゆ、

〔長秋記〕大治四年二月六日乙卯、今日於鳥羽殿有遊女會云々、

〔吾妻鏡十三〕建久四年五月十五日庚辰、藍澤御狩事終入御富士野御旅館、當南面立五間假屋、御家